

## 1. お達者プランの策定状況について (2) 在宅生活改善調査について



加賀市市民健康部介護福祉課

令和 5 年 10 月 26 日



# 在宅生活改善調査

目的	第9期高齢者お達者プランの策定に向けて、自宅等にお住まいの方で現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている利用者の実態を把握し、地域に不足する介護サービス等を検討することを目的とした調査
調査対象	加賀市内の居宅介護支援事業所(15事業所)、小規模多機能型居宅介護事業所(14事業所)
調査期間	7月14日～8月4日
調査内容	①事業所票：事業所の管理者の方が記入 居場所を変更した利用者の要介護度や、行き先等についての質問票  ②利用者票：事業所の各ケアマネジャーの方が記入 各ケアマネジャーのご担当の利用者のうち、「(自宅等にお住まいの方で)現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている利用者」についての調査票

## 主な設問

①事業所票	・事業所に所属するケアマネジャーの人数、利用者数(R5.3.31時点) ・自宅から居場所を変更した利用者数(要介護度別)(R4.4.1～R5.3.31) ・自宅から居場所を変更した利用者数(行き先別)(R4.4.1～R5.3.31)
②利用者票	・利用者の世帯状況、現在の居所(自宅、サ高住など)、介護度  ・現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている理由 ①本人の状態等に属する理由 ②本人の意向等に属する理由 ③家族等介護者の意向・負担等に属する理由  ・「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている」状況を改善するための、サービス利用の変更等について

# 在宅生活改善調査 集計結果から読み取れる加賀市の 特徴について

## 1-1 自宅等から居場所を変更した利用者の行先別人数(過去1年間)について

集計結果P5上段参照

- ①介護老人保健施設(87人 32.0%)
- ②特別養護老人ホーム(37人 13.6%)
- ③サービス付き高齢者向け住宅(17人 6.3%) の割合が高い。

## 1-2 自宅等において死亡した利用者の人数(過去1年間)について

- ・自宅等から居所を変更した利用者数:272人(56.4%)
- ・自宅等で死亡した利用者数:210人(43.6%)

## 2 「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている方」の人数について

集計結果P6下段参照

- ・生活の維持が難しくなっている割合:1,673人のうち、8.3%
- ・加賀市全体で、在宅の生活の維持が難しくなっている利用者数:140人  
(要介護2以下:83人)(要介護3以上:55人)※利用者数合計には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

### «理由(本人の状態に属する理由)»

- ①必要な身体介護の増大
- ②認知症の悪化
- ③必要な生活支援の発生・増大

### «理由(本人の意向に属する理由)»

- ①生活不安が大きいから
- ②本人が、一部の居宅サービスの利用を望まないから
- ③その他、本人の意向等があるから

3 「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている方」の、生活の改善のために必要な支援・サービス等について 集計結果P10下段・P11下段参照

【在宅生活の維持が難しくなっている人:119人】	【在宅生活の維持が難しくなっている人(要介護3以上):49人】
⇒特養・その他施設:72人(60.5%)	⇒特養・その他施設:33人(67.4%)
⇒より適切な在宅サービス:40人(33.6%)	⇒より適切な在宅サービス:14人(28.6%)
⇒改善は困難:7人(5.9%)	⇒改善は困難:2人(4%)

4 「介護度が高い方(介護3～介護5)の、「生活の維持が難しくなっている理由(本人の状態に属する理由)」について 集計結果P7下段・P10上段参照

«介護3～介護5の方が、「生活の維持が難しくなっている理由(本人の状態に属する理由)»

- ①必要な身体介護の増大(83.6%)
- ②認知症の症状の悪化(50.9%)
- ③医療的ケア・医療処置の必要性の高まり(25.5%)

の割合が高い。



«「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」が理由の人の具体的な内容»

- ①酸素療法
- ②褥瘡の処置
- ③疼痛の看護

の割合が高い。

ver.1.2

# 在宅生活改善調査 集計結果

2023/09/13

石川県加賀市

発送事業所数：29件

回収事業所数：29件

回収率：100.0%

# 【在宅生活改善調査】

## 調査の目的

- ・在宅生活改善調査では、「過去1年間」の、①自宅等から居場所を変更した利用者の行先別人数や②自宅等において死亡した利用者の人数、また、現在自宅等にお住まいの方で、「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている方」の、①人数や②生活の維持が難しくなっている理由、③生活の改善のために必要な支援・サービス等を把握します。
- ・そして、調査の結果や、調査結果に基づいた関係者間での議論を通じ、住み慣れた地域での生活の継続性を高めるために必要な支援やサービス、連携のあり方を検討し、介護保険事業計画に反映していくことを目的としています。

## 調査の概要

- ・アンケートは、居宅介護支援事業所のケアマネジャーの方にご回答いただきます。各ケアマネジャーは担当する利用者について、上記の「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている方」を抽出し、その概要を回答します。
- ・それぞれのケアマネジャーが判断する、「その方の生活改善に必要な支援・サービス」が「地域に不足する支援・サービス」である、という考え方が基礎にあります。
- ・本調査の集計では、「特養待機者」「その他施設等の待機者」「在宅サービス待機者」という言葉を使用していますが、これは特養のみでなく、その他のサービスの待機者についても同じように把握し、整備の必要性を検討するためのものです。

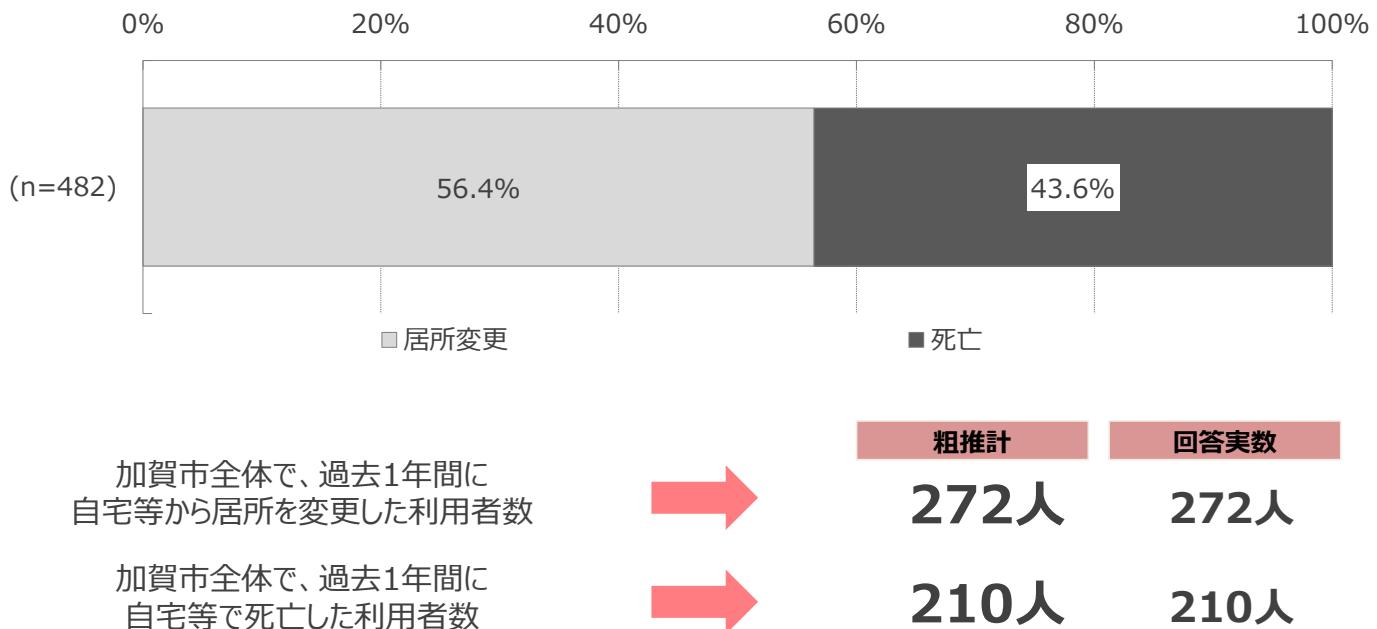
## 注目すべき ポイント

- ・過去1年間で、自宅等から居所を変更した人（住み慣れた住まいに暮らすことができなくなった人）は、どの程度いるか？
- ・現在、生活の維持が難しくなっている人は、どのような人で、どの程度いるか？（継続的に調査し、その人数を減らすことはできないか）
- ・生活の維持が難しくなっている理由、生活改善に必要な支援・サービスは何か？（サービス提供体制の構築方針の検討）

※ 特に生活の維持が難しくなっている理由や、必要な支援・サービスについては、アンケート調査の結果のみでなく、調査結果をもとに関係者間での議論を通じて検討することが重要です。

# 過去1年間の実績

## 過去1年間の居所変更と自宅等における死亡の割合



(注1) 「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。

(注2) 「粗推計」は、居所を変更した利用者数や自宅等で死亡した利用者数に、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。

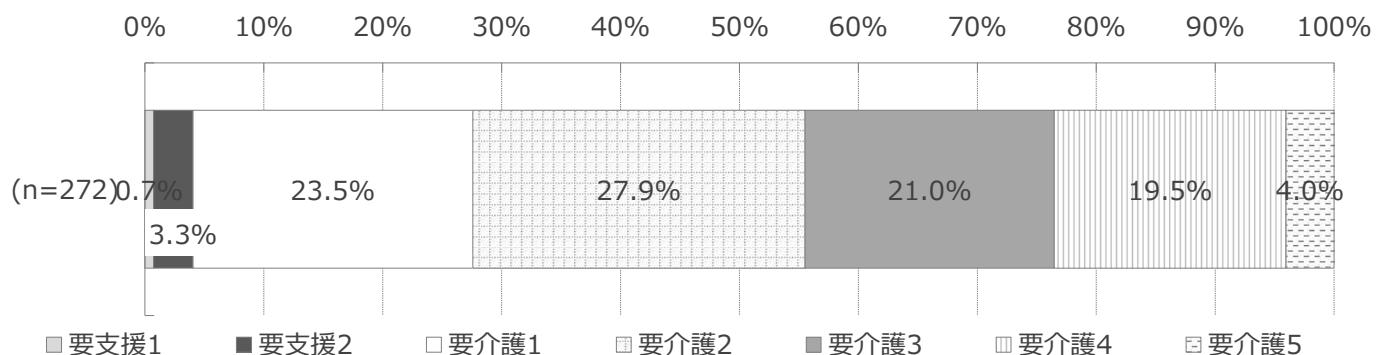
## 過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先別の人数

行先	市区町村内	市区町村外	合計
兄弟・子ども・親戚等の家	1人 0.4%	1人 0.4%	2人 0.7%
住宅型有料老人ホーム	5人 1.8%	3人 1.1%	8人 2.9%
軽費老人ホーム	11人 4.0%	4人 1.5%	15人 5.5%
サービス付き高齢者向け住宅	16人 5.9%	1人 0.4%	17人 6.3%
グループホーム	15人 5.5%	0人 0.0%	15人 5.5%
特定施設	5人 1.8%	1人 0.4%	6人 2.2%
地域密着型特定施設	3人 1.1%	0人 0.0%	3人 1.1%
介護老人保健施設	84人 30.9%	3人 1.1%	87人 32.0%
療養型・介護医療院	15人 5.5%	0人 0.0%	15人 5.5%
特別養護老人ホーム	34人 12.5%	3人 1.1%	37人 13.6%
地域密着型特別養護老人ホーム	12人 4.4%	0人 0.0%	12人 4.4%
その他	50人 18.4%	0人 0.0%	50人 18.4%
行先を把握していない			5人 1.8%
合計	251人 92.3%	16人 5.9%	272人 100.0%

(注1) 「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。

(注2) 表の上段の数値は、「回答実数」であり、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出した「粗推計」されたものではありません。

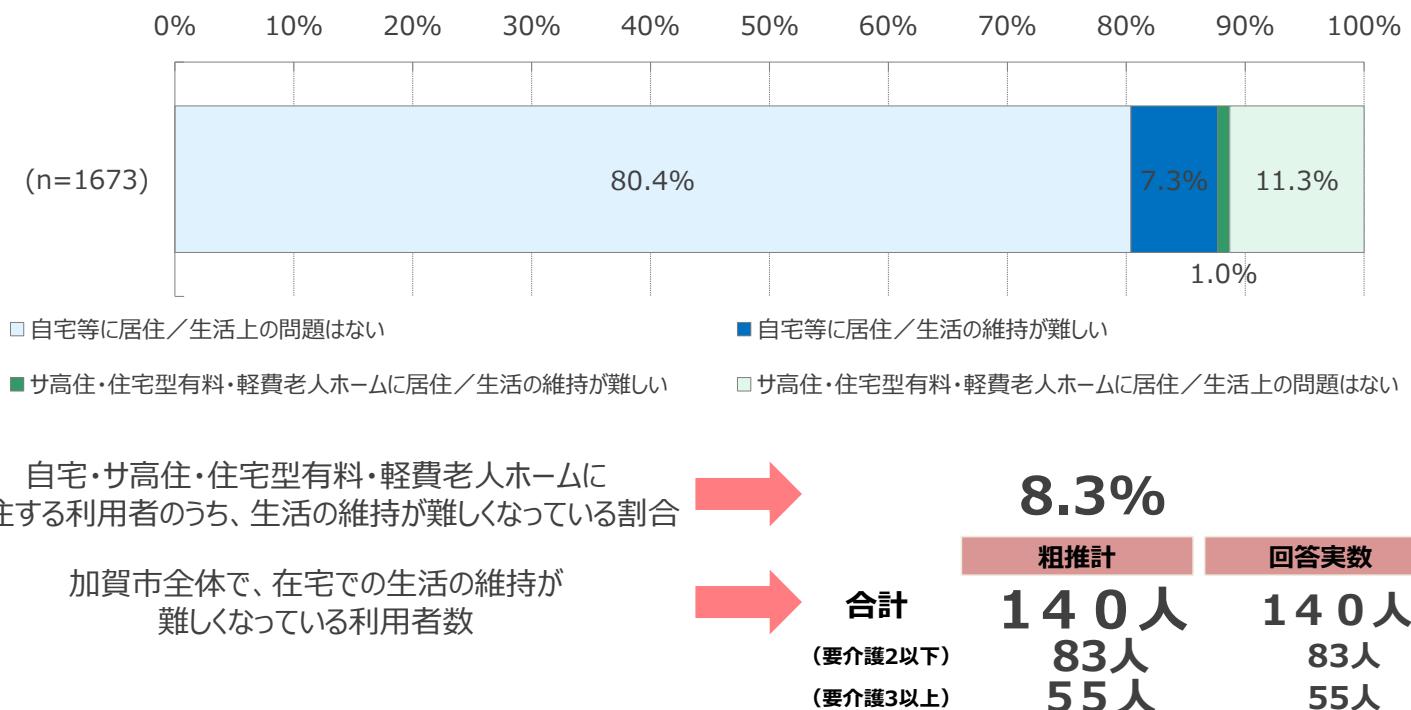
## 過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の要介護度の内訳



(注)「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。また、死亡した方は集計から除いています。

## 現在の利用者の状況

## 現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者

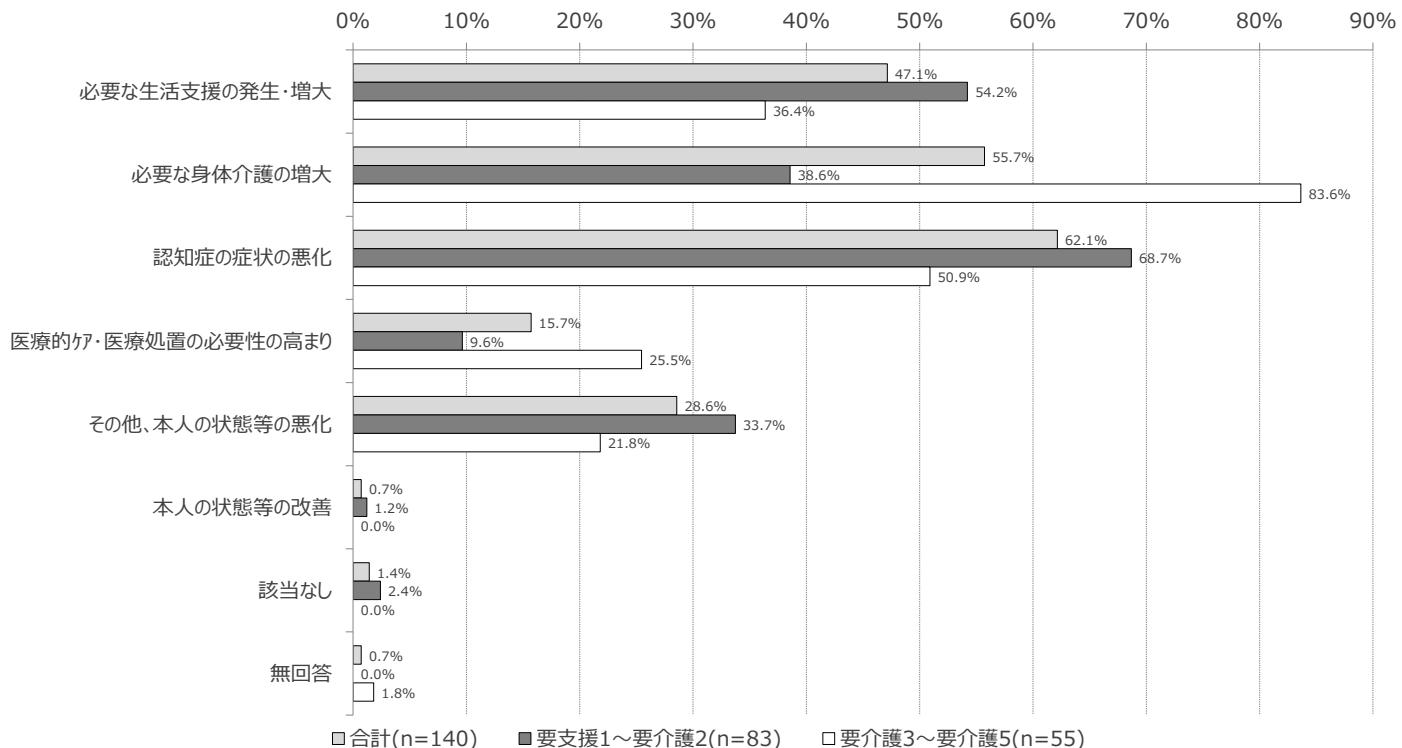


## 現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者の属性

順位 上位10 类型)	回答実数	粗推計	割合	世帯類型				居所			要介護度	
				独居	夫婦のみ世帯	単身の子どもとの同居	その他世帯	自宅等 (持ち家)	自宅等 (借家)	サ高住 ・住宅型有料・軽費	介2 以下	介3 以上
1	25人	25人	17.9%	★				★			★	
2	15人	15人	10.7%				★	★				★
2	15人	15人	10.7%			★	★				★	
4	14人	14人	10.0%		★			★				★
4	14人	14人	10.0%	★					★		★	
6	10人	10人	7.1%	★						★	★	
7	8人	8人	5.7%			★		★			★	
8	6人	6人	4.3%	★					★			★
9	5人	5人	3.6%	★						★		★
9	5人	5人	3.6%	★				★				★
上記以外	23人	23人	16.4%									
合計	140人	140人	100.0%									

## 現在の利用者の状況

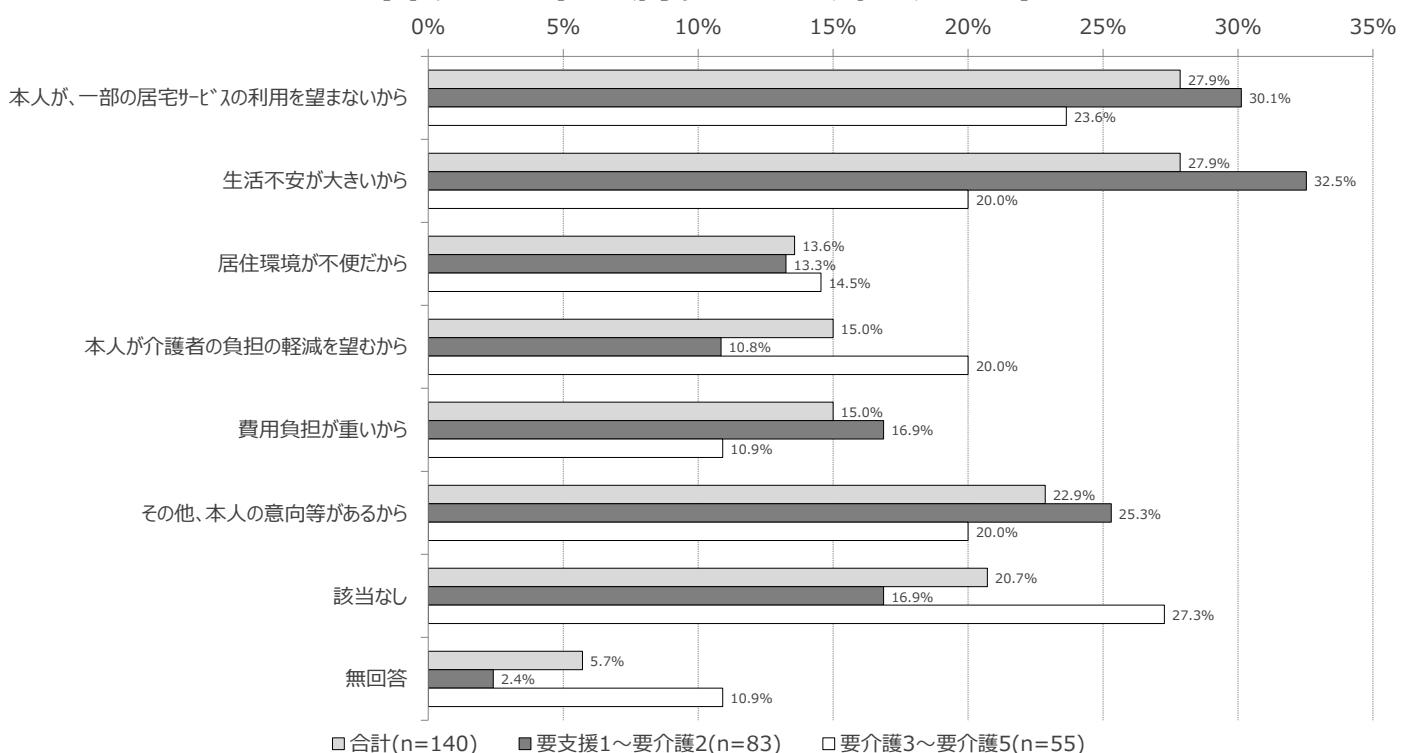
### 生活の維持が難しくなっている理由 (本人の状態に属する理由、複数回答)



(注)「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

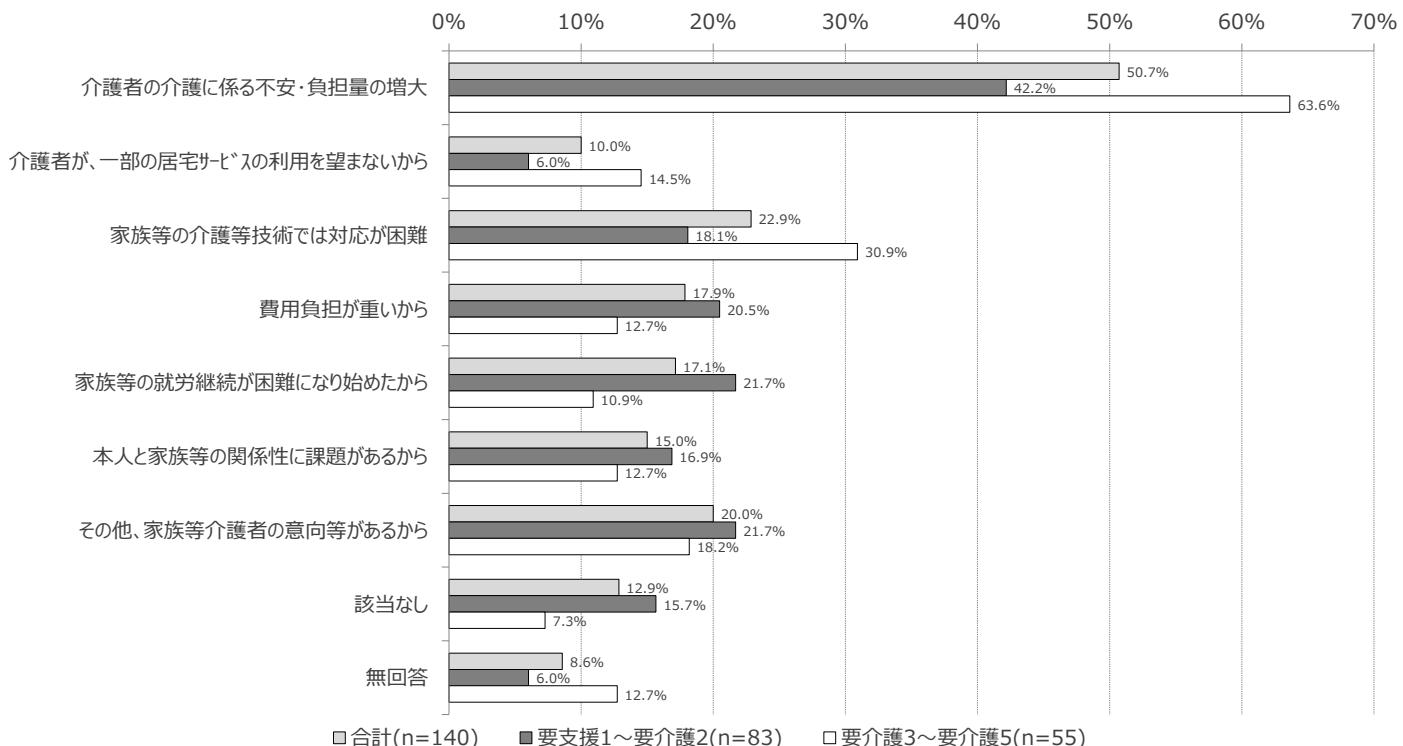
## 現在の利用者の状況

### 生活の維持が難しくなっている理由 (本人の意向に属する理由、複数回答)



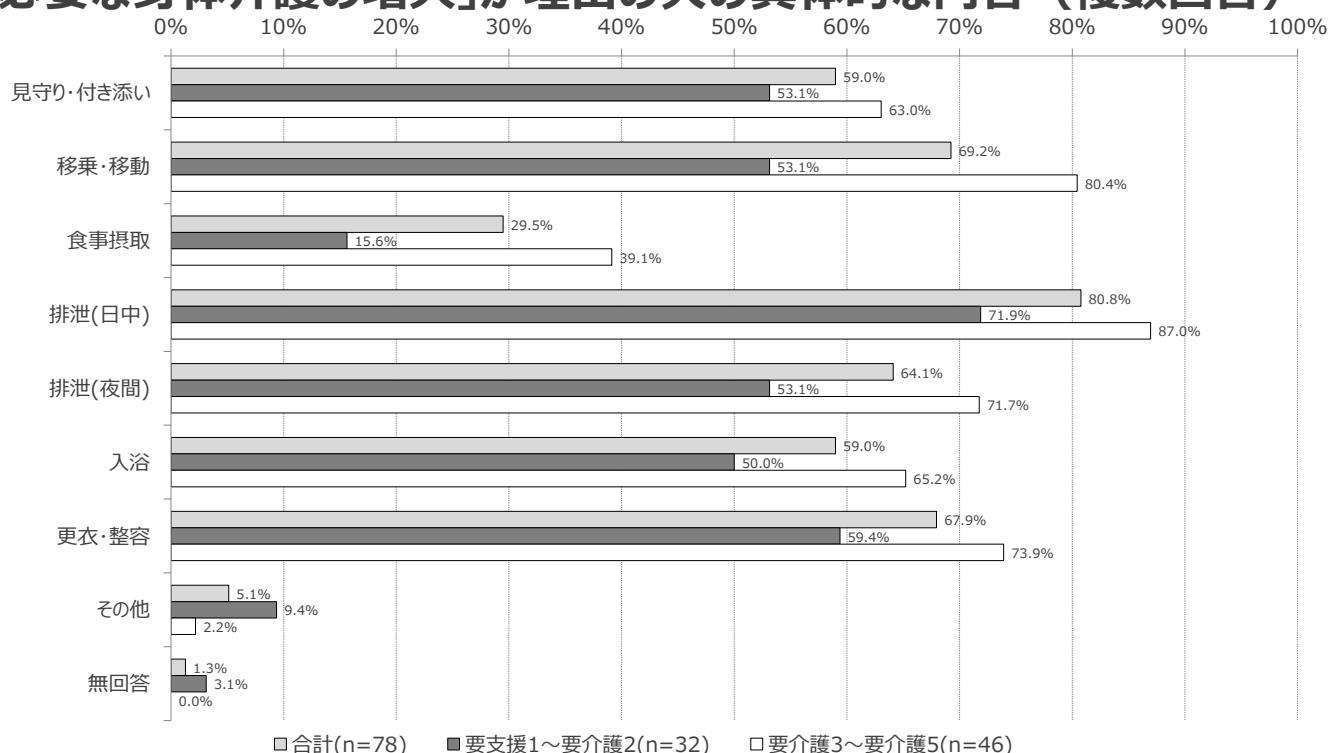
(注)「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

## 生活の維持が難しくなっている理由 (家族等介護者の意向・負担等に属する理由、複数回答)



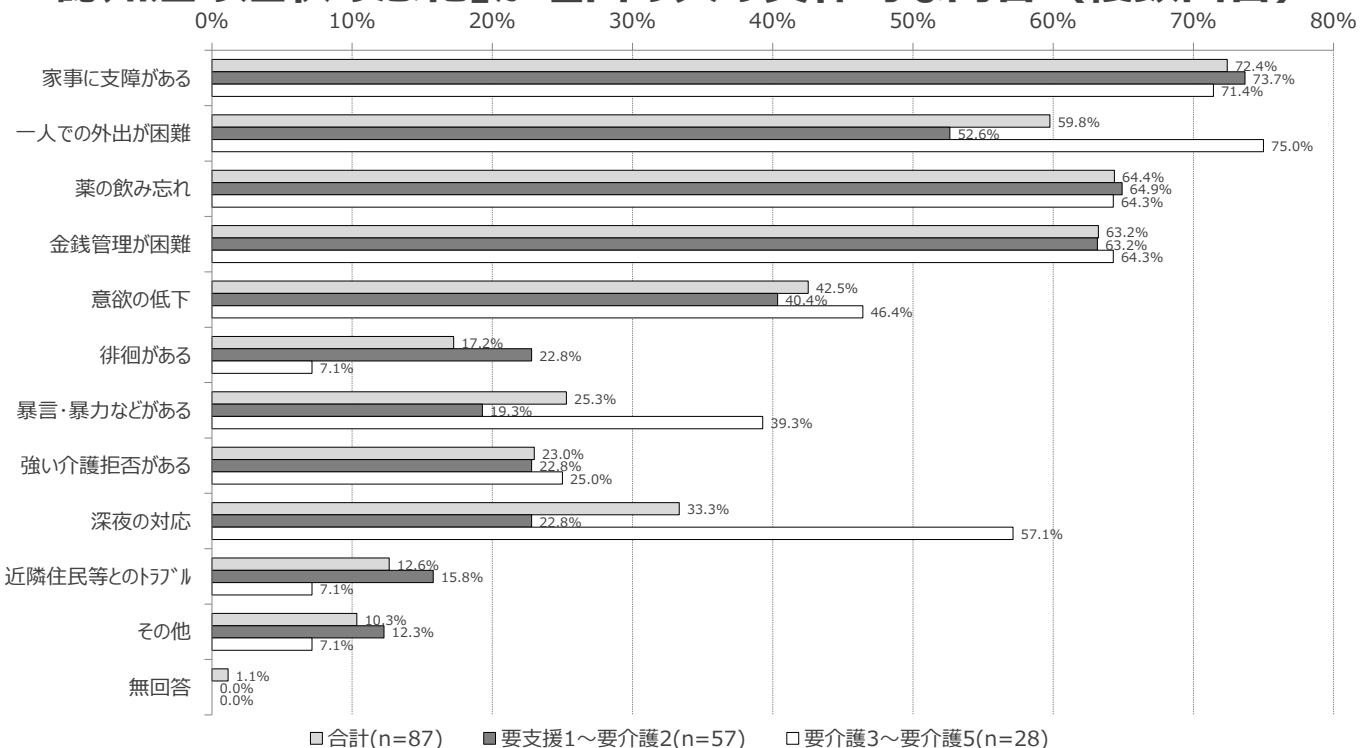
(注)「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

## 「必要な身体介護の増大」が理由の人の具体的な内容 (複数回答)



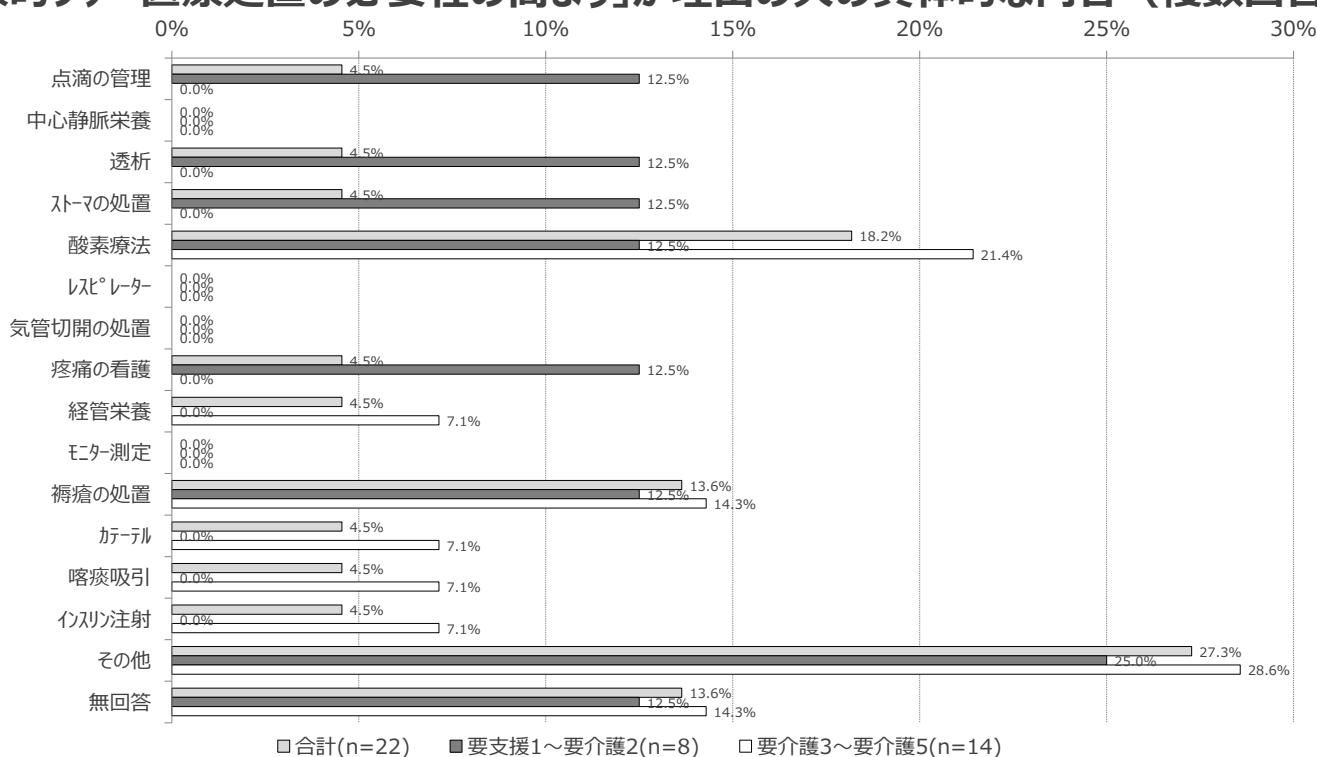
(注)「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

## 「認知症の症状の悪化」が理由の人の具体的な内容（複数回答）



(注)「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

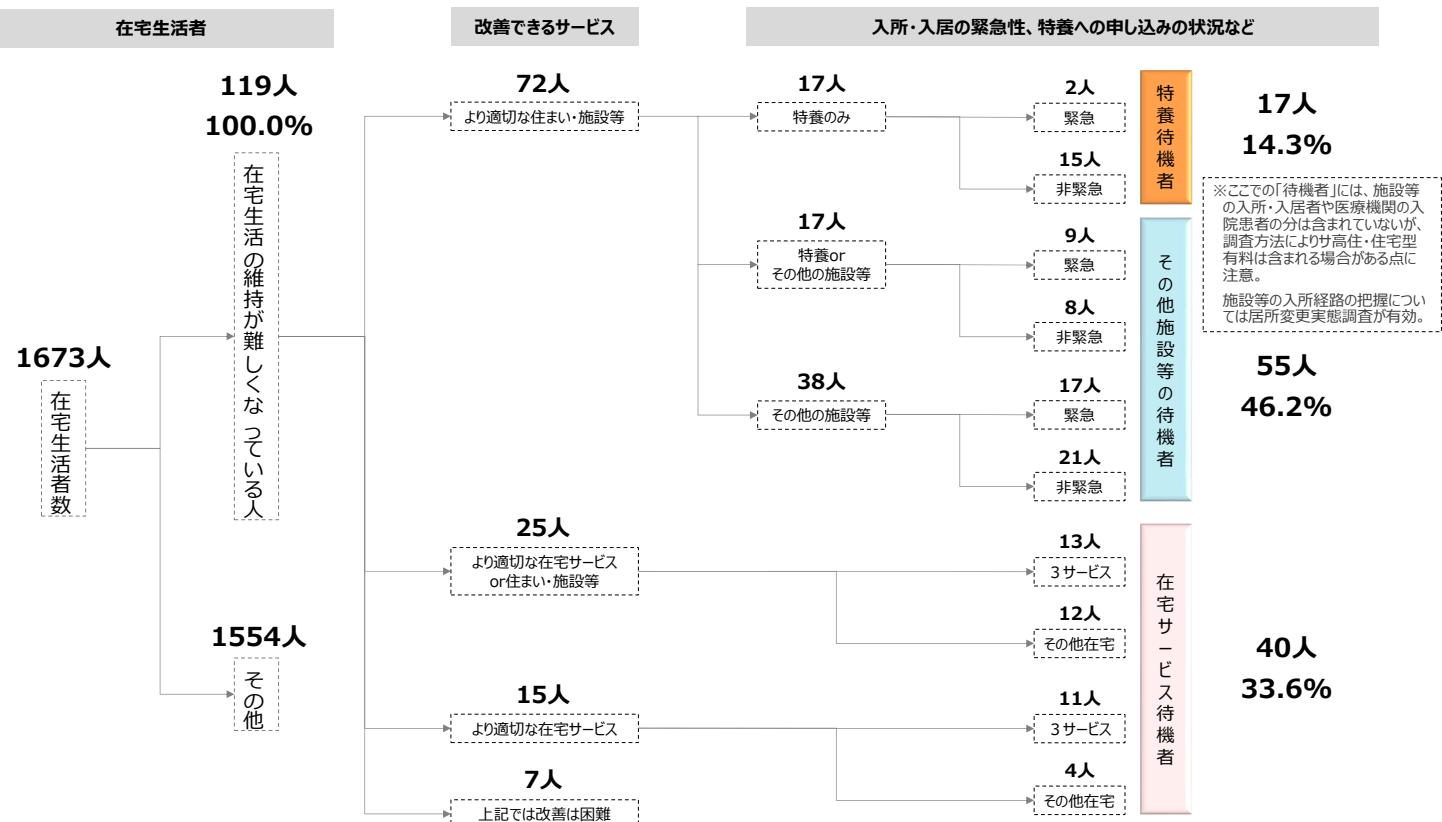
## 「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」が理由の人の具体的な内容（複数回答）



(注)「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

## 現在の利用者の状況

# 「生活の維持が難くなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更



(注1) 「より適切な在宅サービスor住まい・施設等」については、選択された在宅サービス「住まい・施設等」を代替できるとして、「在宅サービス待機者」に分類しています。

(注2) 「生活の維持が難くなっている人」の合計140人のうち、上記の分類が可能な119人について分類しています（分類不能な場合は「その他」に算入しています）。割合（%）は、119人を分母として算出したものです。

(注3) 「非緊急」には、緊急性について「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」「その他」と答えた方と無回答の方を含めています。

(注4) 上記に示す人数は、「回答実数」であり、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出した「粗推計」されたものではありません。

## 現在の利用者の状況

# 「その他施設等の待機者」と「在宅サービス待機者」の生活の改善に必要なサービス（複数回答）

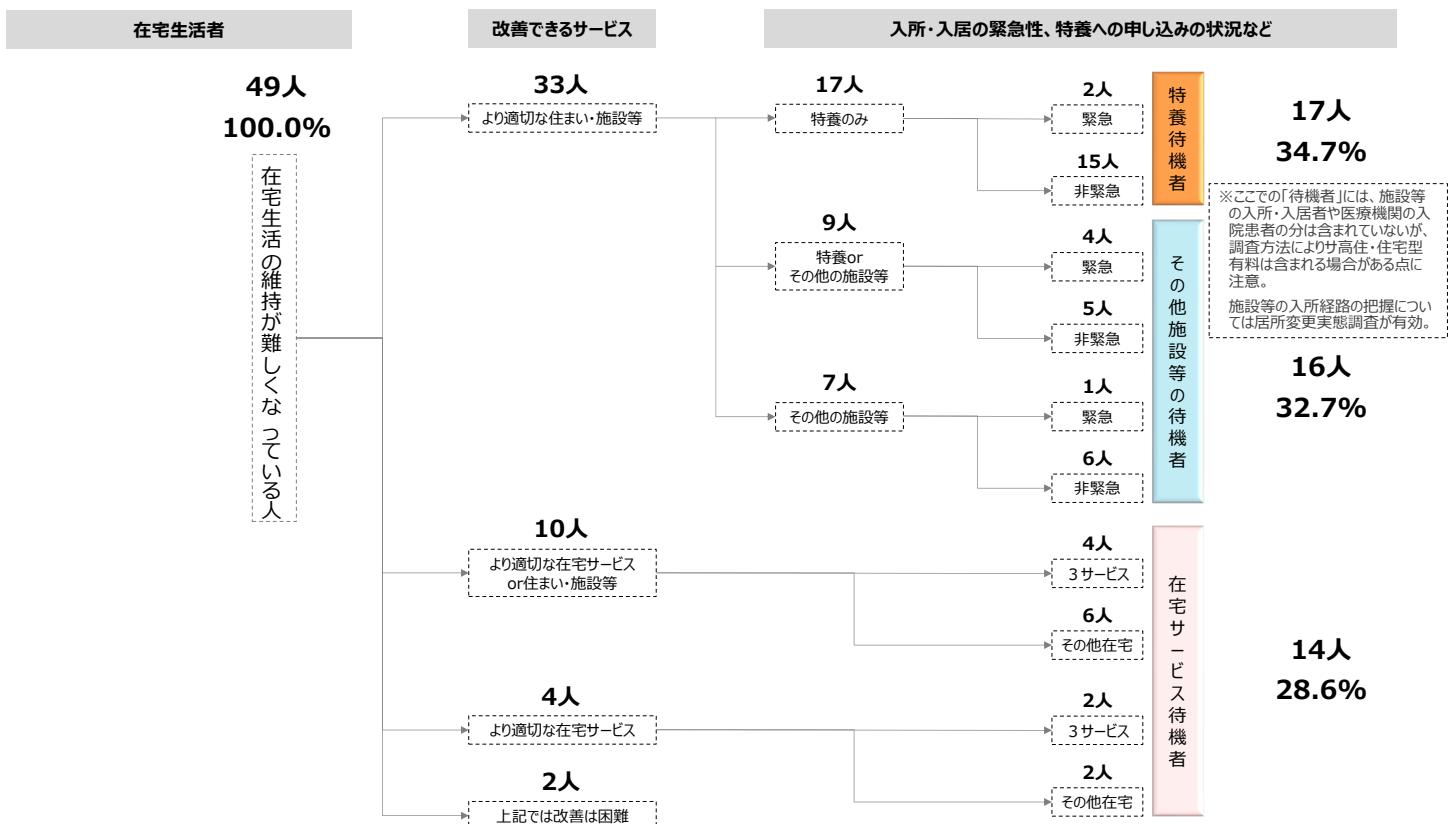
生活の改善に必要なサービス	その他施設等の待機者(55人)	在宅サービス待機者(40人)		
住まい・施設等	住宅型有料 3人 5.5%	住宅型有料 1人 2.5%	生活の改善に向けて、代替が可能	
	サ高住 9人 16.4%	サ高住 1人 2.5%		
	軽費老人ホーム 4人 7.3%	軽費老人ホーム 0人 0.0%		
	グループホーム 32人 58.2%	グループホーム 8人 20.0%		
	特定施設 3人 5.5%	特定施設 0人 0.0%		
	介護老人保健施設 25人 45.5%	介護老人保健施設 13人 32.5%		
	療養型・介護医療院 4人 7.3%	療養型・介護医療院 2人 5.0%		
	特別養護老人ホーム 17人 30.9%	特別養護老人ホーム 8人 20.0%		
在宅サービス	-			
	-			
	-			
	-			
	-			
	-			
	-			
	-			
	-			
	-			

(注1) 割合は、それぞれ、その他施設等の待機者55人、在宅サービス待機者40人を分母として算出したものです。

(注2) 「在宅サービス待機者」について、生活改善に必要なサービスとして「住まい・施設等」と「在宅サービス」の両方を回答している場合は、代替が可能としています。

## 現在の利用者の状況

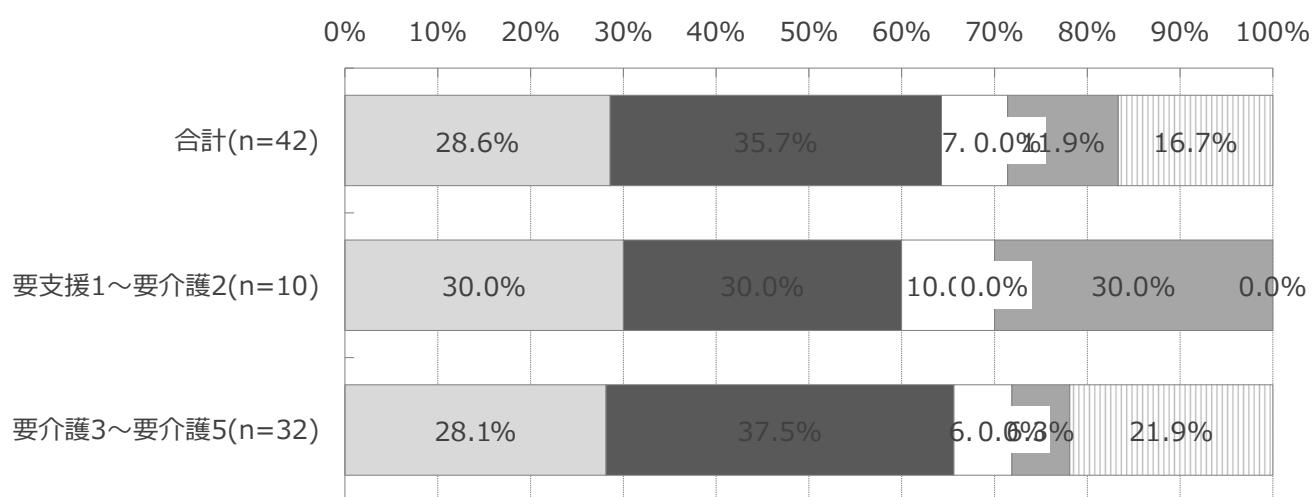
### 「生活の維持が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更（要介護3以上）



(注1)「より適切な在宅サービスor住まい・施設等」については、選択された在宅サービス「住まい・施設等」を代替できるとして、「在宅サービス待機者」に分類しています。  
 (注2)「生活の維持が難しくなっている人（要介護3以上）」の合計55人のうち、上記の分類が可能な49人について分類しています（分類不能な場合は「その他」に算入しています）。割合（%）は、49人を分母として算出したものです。  
 (注3)「非緊急」には、緊急度について「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」「その他」と回答した方と無回答の方を含めています。  
 (注4)上記に示す人数は、「回答実数」であり、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出した「粗推計」されたものではありません。

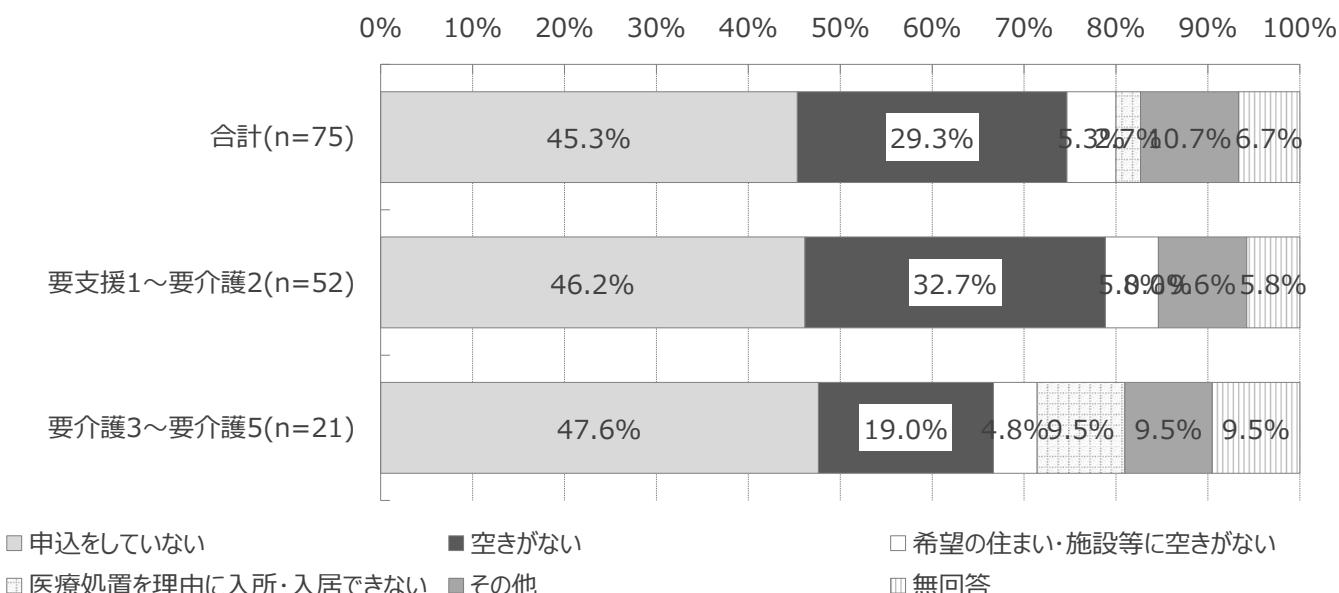
## 現在の利用者の状況

### 特養に入所できていない理由 (改善に必要なサービスで、特養を選択した人)



■ 申込をしていない ■ 空きがない □ 希望の施設に空きがない □ 医療処置を理由に入所できない ■ その他 □ 無回答

## 特養以外の住まい・施設等に入所・入居できていない理由 (改善に必要なサービスで、特養以外の施設・住まい等を選択した人)



(注)「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。